

小菅村

Sobibo



エコミュージアム
日本村

素のままの美しい暮らし

環境学習の源流から未来へ

第35回 環境学習セミナー (2015.10.10)

自然文化誌研究会冒険探検部創設40周年記念

木俣美樹男

植物と人々の博物館／日本村塾

研究員塾生

目次

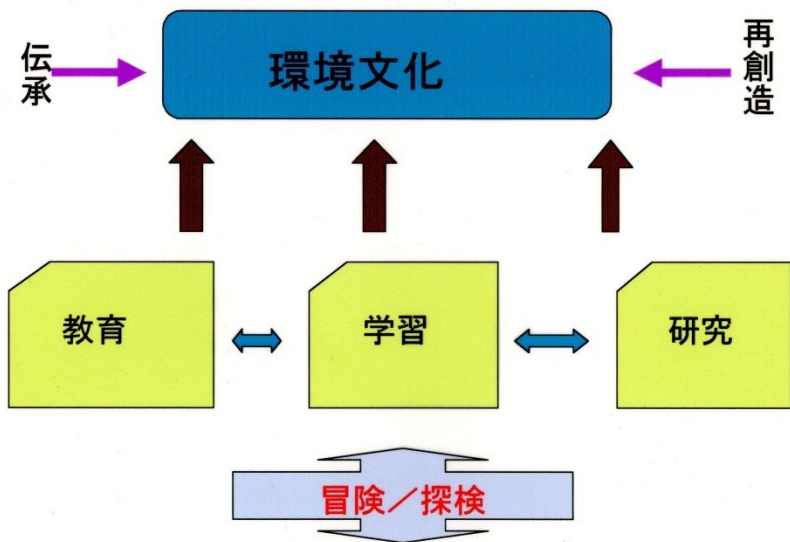
- **どのように辿るのか、人生の旅路を**
冒険探検の旅の到達点とこれから
- **エコミュージアム日本村**
トランジション小菅
雑穀街道
- **自然文化誌研究会**
植物と人々の博物館
日本村塾／
自給農耕ゼミ、扶桑園ゼミ、民族植物学ゼミ
- **皆様への提案、「さあ山村」**

冒険／探検は人生の道草

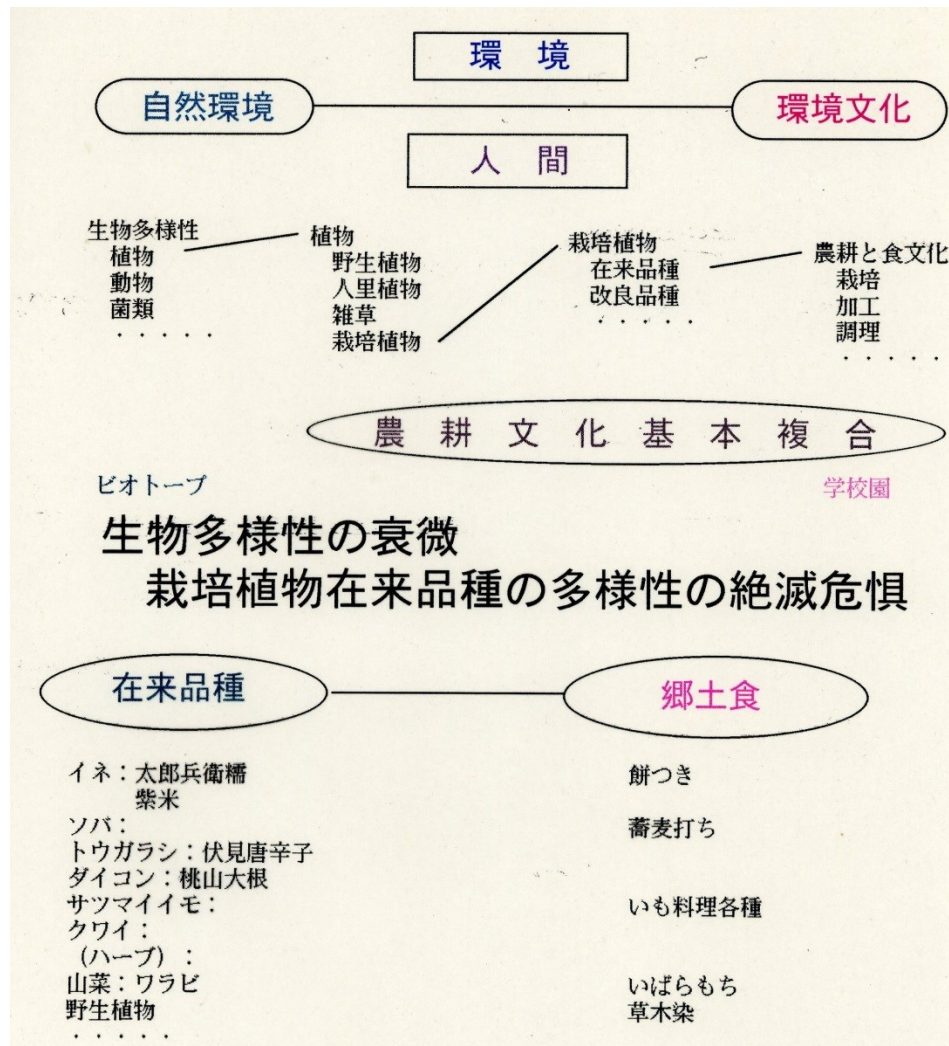
目的らしいものの分類

- ・ 経済 金儲けの種探し
- ・ 軍事 戦争の手伝い
- ・ 学術 ★ 調査、研究材料を探す
- ・ 宗教 布教、修行、経典を探す
- ・ スポーツ 心身の楽しみ
- ・ 観光 ★ 物見遊山
- ・ その他 なんとなく放浪

伝統知と失われた穀物の復活



どのように辿るのか、人生の旅路を



冒険探検の旅の到達点とこれから

これまで:

- ユーラシア大陸などの雑穀のフィールド調査
日本、イギリス、北米も含む
- 雑穀の起源と伝播の実験研究
- 環境学習の実践と理論構築

これから:

- アーカイブ・データベースの構築・公開

民族植物学ノット、ウェブサイト: 真文明論の提案
野帳資料、文献図書、民具・さく葉標本など

研究仕事の比較 小菅での16年

木俣美樹男（2000）南インドにおけるイネ科雑穀のコルネおよびコラリの栽培化過程とその利用、育種学研究2（別1）：245

木俣美樹男・Laddawan Kanhasuwan・Siriwat Soondarotok（2000）タイにおける環境学習活動、日本環境教育学会第11回大会（長野）発表要旨集、p. 89

阿部礼恵・木俣美樹男（2000）食をめぐるライフスタイルから見た環境認識——山梨県北都留郡小菅村・丹波山村を事例として、日本環境教育学会第11回大会（長野）発表要旨集、p. 42

Kimata, M. 2000. Domestication process of korali, *Setaria glauca* (Poaceae). 41st Annual Conference, Society for Economic Botany. Abstracts pp. 14-15.

木俣美樹男（2000）南インドにおける2種の雑穀コルネ *Brachiaria ramosa* とキンエノコロ *Setaria glauca* の栽培化過程 雑穀研究 第12号：23-25

木俣美樹男（2000）インド亜大陸北部における雑穀類の伝播、雑穀研究 第12号：18-20

木俣美樹男（2000）タイにおける環境教育の現状と課題、環境教育学研究 第10号：107-112

木俣美樹男（2000）大学・大学院レベルで求められる環境学習課程、環境教育学研究 第10号：129-135

Kimata, M. 2000. Teacher education system and environmental education programs in Japan. The Third UNESCO/Japan Seminar on Environmental Education in Asian-Pacific Region. Japanese National Commission for UNESCO, Ministry of Education, Science, Sports and Culture, and Tokyo Gakugei University, pp. 80-85.

Kimata, M., E.G. Ashok and A. Seetharam. 2000. Domestication, cultivation and utilization of two small millets, *Brachiaria ramosa* and *Setaria glauca* (Poaceae), in South India. Economic Botany 54(2): 217-227.

民族植物学ノート第8号、第9号

木俣美樹男. 2015. 生きるという任意・自律的な営為を動かす心情の省察.

Kimata, M. 2015. Domestication process and linguistic differentiation of millets in the Indian subcontinent.

Kimata, M. 2015. Tertiary domestication process of *korati*, *Setaria pumila* (Poaceae) through the mimicry to other grain crops in the Indian Subcontinent.

Kimata, M. 2015. Domestication process of *korati*, *Setaria pumila* (Poaceae), in the Indian subcontinent on the basis of cluster analysis of morphological characteristics and AFLP markers.

Kimata, M. 2015. Domestication and dispersal of *Panicum miliaceum* L. (Poaceae) in Eurasia.

Kimata, M., Y. Ishikawa, H. Kagami, A. Otsubo and K. Otsuka. 2015. Agricultural complex of millets in the Indian subcontinent.

木俣美樹男 2015、嗜好品、植物学の百科事典、丸善、印刷中。

その他、エッセイはホームページ『生き物の文明への黙示録』、ナマステ『冒険探検粉塵記』、アーカイヴズづくりなど。

（売らない作家）

これまでの到達点

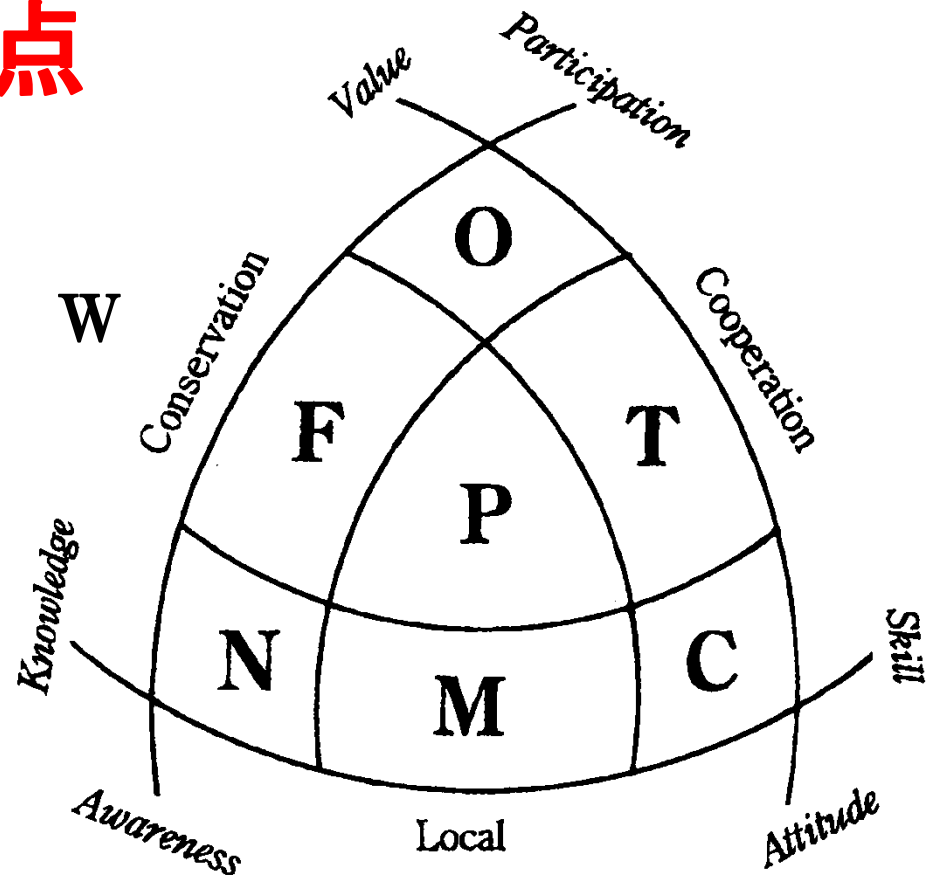


図1 カライダスコップ方式：環境学習プログラムの枠組み
基本学習プログラム：自然誌^WN、文化誌C、世界観O。
連関学習プログラム：生産M、思索T、感得F。
統合学習プログラム：遊戯P。
行動プログラム：地域、協働、保全の各学習プログラム。
環境教育目標：関心、知識、技能、態度、参加、価値観。

伝統地域⇒ 近代学校制度⇒ 現代国際化⇒ 未来文明

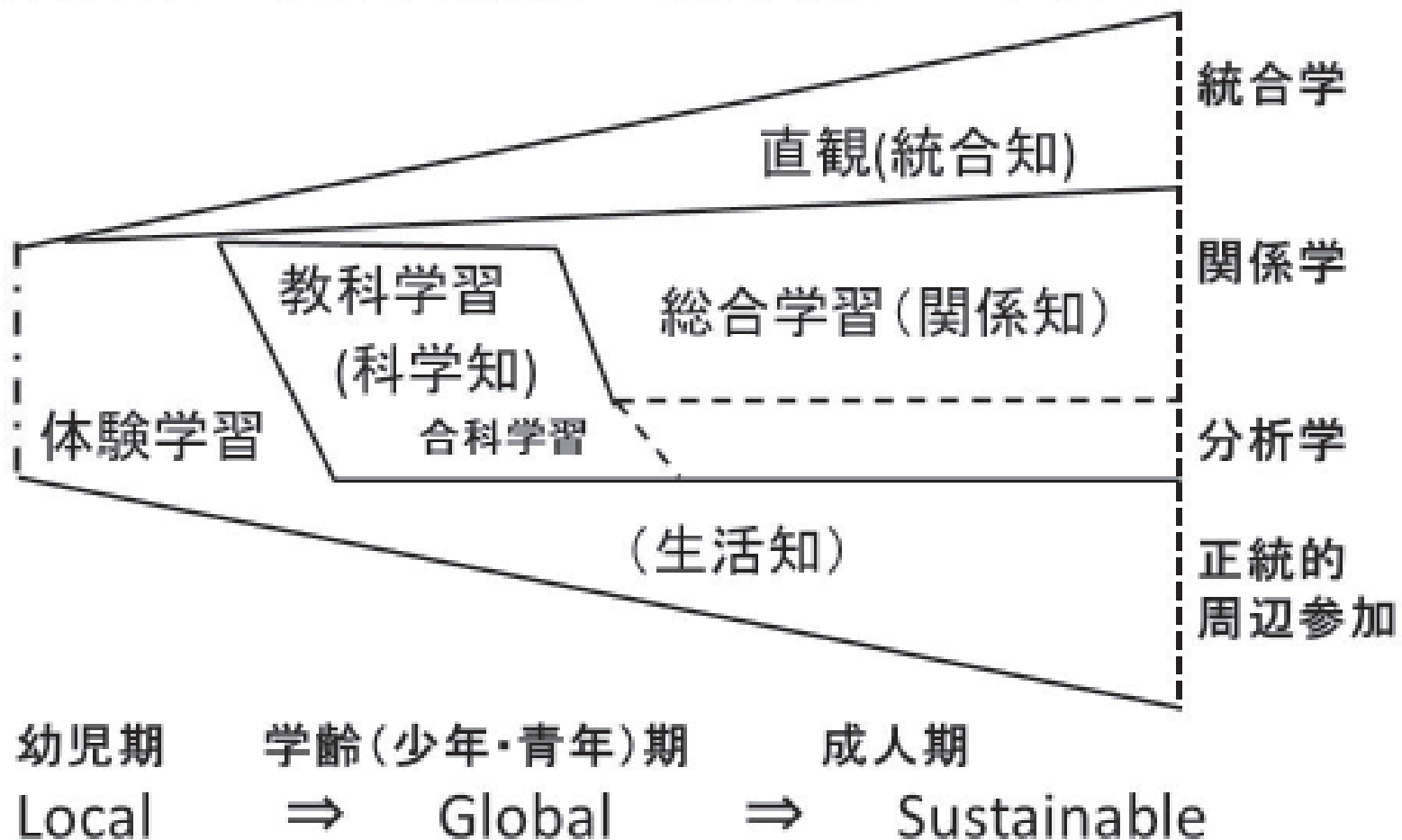


図1 人類の文明社会の複雑化に適応する生涯にわたる環境学習過程の構造(作業モデル6)。

エコミュージアム 日本村

世界観

自然観、価値観の形成
信仰、アニミズム

自然

環境保全、水源涵養
災害防止、
生物多様性の保存

神社・仏閣

郷土資料館

農業慣行
農耕儀礼
文化財

農山村

集落景観、居住形態、
生活様式、社会関係、
伝統的知恵(食文化など)

野生生物

山・森・川

生物文化

レクリエーション機能、教育機能

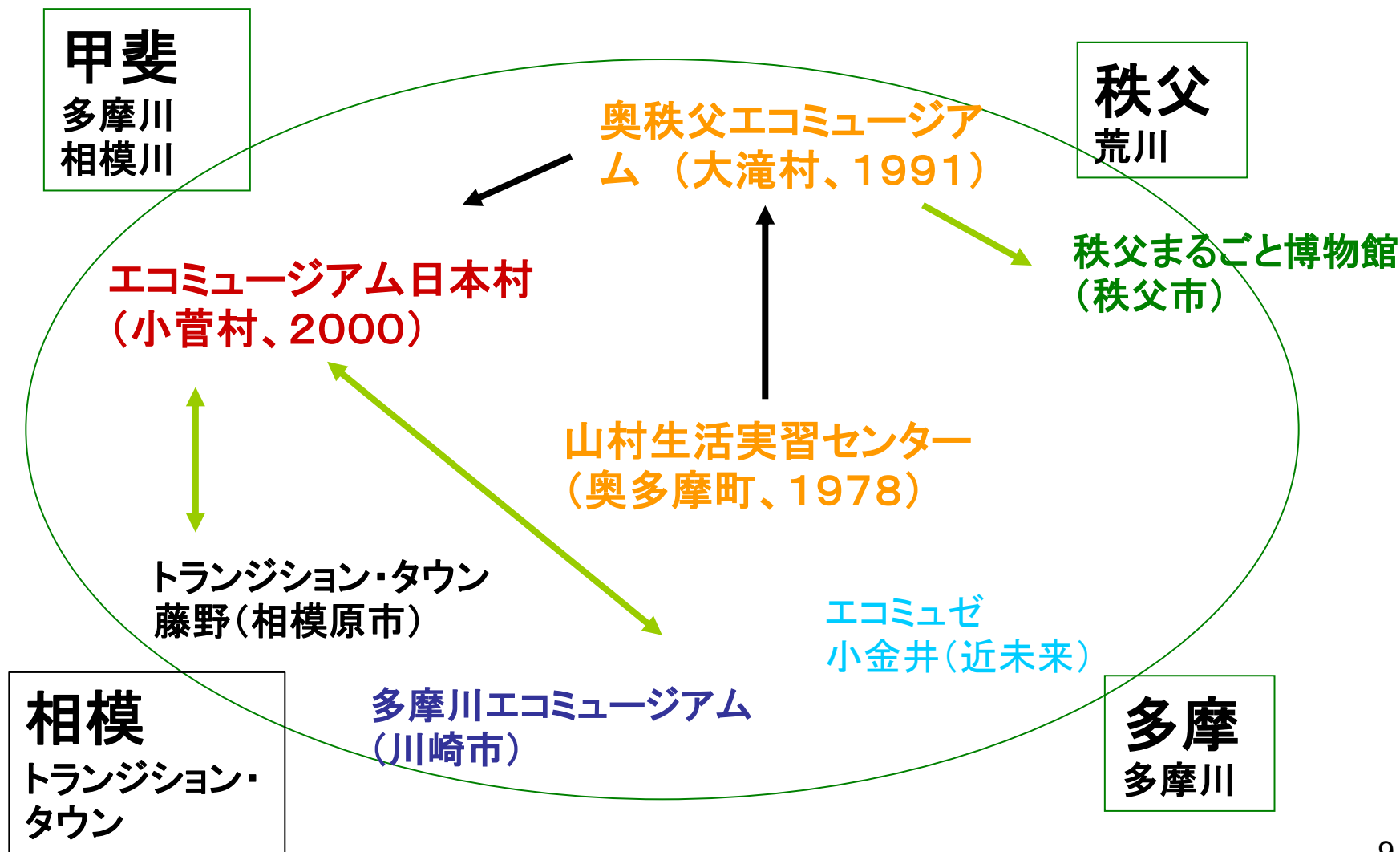
里山、農耕地、農家

農林業生産機能
生活文化機能

自然環境保全機能

登山道、林道、生活道

秩父多摩甲斐国立公園／エコミュージアム・ネットワーク



このくにの自然と文化

- 自然

山が多い。約64%が森林。

川は短く急流である。「水に流す」

海に囲まれている。島が多い。

火山が多い。

- 文化

極東辺境の地で、海に囲まれ、先行きがない。

移入した文化を変容してきた。

独自の栽培植物は少ないが、在来品種は多い。

縄文土器は今のところ最古である。山住の文化。

弥生文化、平場住み。環境が多様である。

エコミュージアム日本村

山梨県小菅村

雜穀街道

多摩川水系 小菅川

丹波山村

相模川水系 鶴川

トランジション小菅

奥多摩の市町村

長寿・雑穀のむら 上野原市

野川 小金井市

相模川 相模原市藤野

東京学芸大学農園(彩色園)
ちえのわ農学校

トランジッション・タウン小金井

トランジッション・タウン藤野
 お百姓クラブ、藤野倶楽部
 日本村塾

ローカル・シード・バンクづくり
雑穀など在来品種の保存、伝統
食の普及、山村の暮らしに学ぶ

くにを良くする学びの提案

エコミュージアム日本村は伝統文化を身につけた「日本人」になる暮らしの場であり、学びの場でもあります。

森と水、生物多様性を守ってきた山村暮らしの多様な技能、生活文化を都市民に伝えることを、山村の新たな「教育観光産業」として、仕事場を作りましょう。

村民の意思が直接確認できる小さな自治体の試みが日本や世界に良い影響を与えます。志を高く、大きく、山村民と都市民の有志がともにゆっくりと話し合っ
て、素のままの美しい暮らしを提案しましょう。

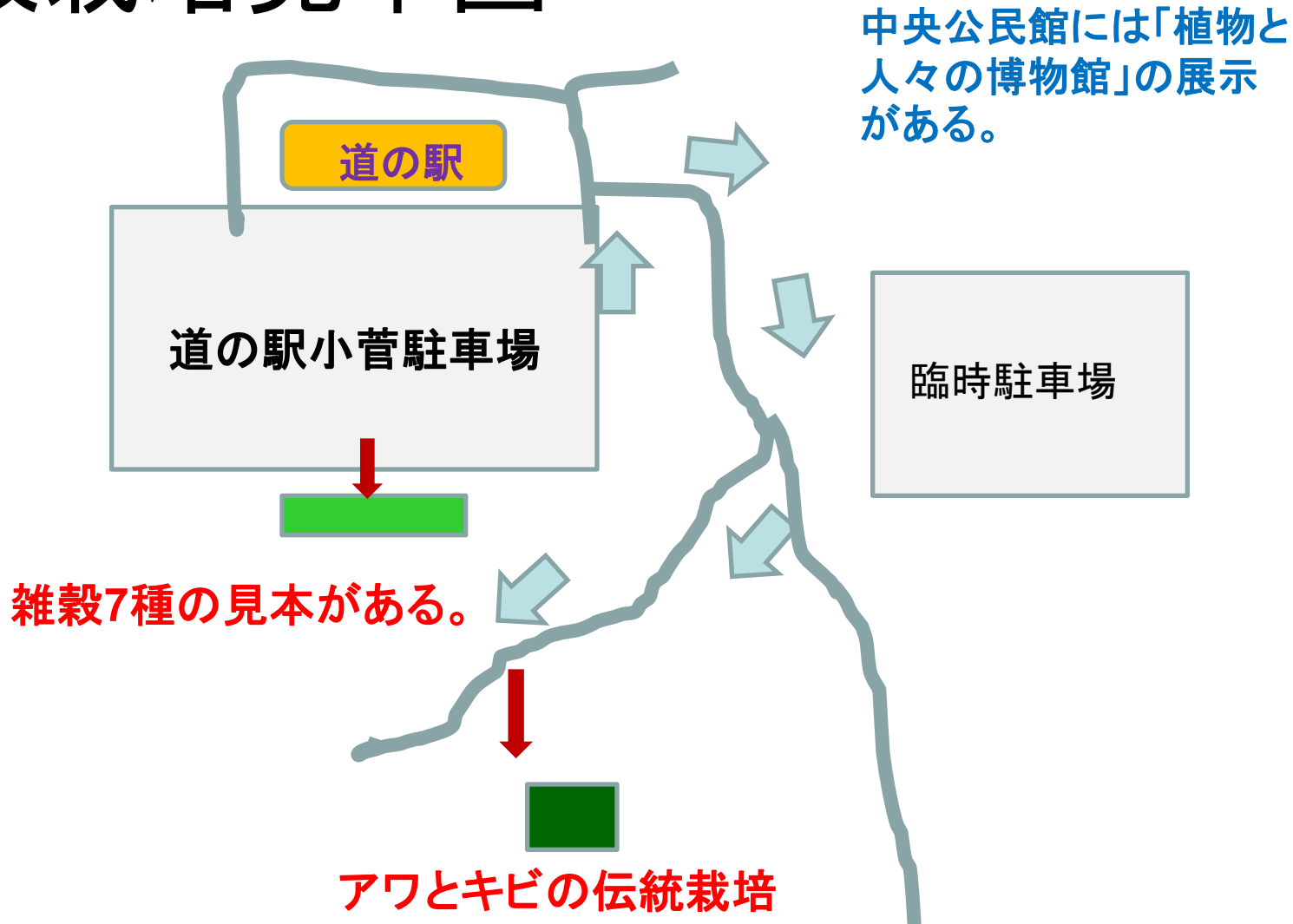
雑穀街道

Hirse Straße



山梨県上野原市桐原は古守豊甫さん(健康医学)、近藤正二さん(長寿学)、鷹嘴テルさん(食物学)、光岡知足さん(腸内細菌学)らの予防医学研究により世界保健機関WHOも調査に来たほど、世界に知られた穀菜食による長寿村でした。雑穀が現在まで栽培され続けているので、多くの研究者たちが訪れています。雑穀を栽培する生物文化多様性が豊かな地域として、上野原市桐原につながる相模川水系の相模原市緑区藤野から多摩川水系の丹波山村までをつなぐ道を、雑穀街道と呼ぶことにします。

雑穀栽培見本園



最近の災害から何を考えましたか？

- 自然災害
 - 地震、津波
 - 台風、ゲリラ豪雨、洪水、土砂崩れ
 - 火山噴火
 - 大雪、雪崩、冷害やませ、干ばつ
- 人為災害
 - 原子力発電所メルトダウン、放射線被ばく
 - 環境汚染、公害病、生ごみの大量廃棄
 - 経済破綻、貧富の格差拡大、過疎高齢化
 - 戦争、内戦（TPP、解釈改憲）
 - 人口増加、食糧とエネルギーの南北差

災害から家族や地域を守るには

- 自然に近い山村や食料生産の現場である農漁村の暮らしから、伝統的な知恵を学ぶ。
- 災害の歴史から、生存する技能を学び、対応する。
- 身近な地域で、小規模自給農耕をする。
- 家庭や地域で非常時の食料を備蓄する。
- 緑地を避難場所として保全する。
- 別の場所に親戚や友人をつくり、非常時には助け合う。
- 「今だけ、金だけ、自分だけ」をよして、心豊かな人々が暮らす地域社会を築く



植物と人々の博物館

Plants and People Museum



展示解説などを希望される方は、メールで、ご連絡ください。

担当: 木俣 研究員村塾生
kimatami@u-gakugei.ac.jp

展示案内

1階：民具展示室、収蔵庫

小菅村と世界の生活用具、雑穀のむらパネル展示

2階：森とむらの図書室

森とむらの会行政調査資料、農林業、民族植物学、環境学習、冒険探検、南アジアなどの関連図書

3階：タイの民具、標本庫

交流先タイの生活用具や遊びの民具、小菅の動・植物標本と世界の雑穀のさく葉標本

展示の基本概念

- 1) エコミュージアム日本村のコア博物館として、世界の植物と人々の関わりの自然文化誌を展示し、現代社会における山村の伝統的知識や生物文化多様性の大切さから、日本と世界における小菅村の重要な位置づけを示します。
- 2) 公民館活動としての展示を、小中学生、地域住民、訪問者ほか多くの方の環境理解に役立つものにする。
- 3) 科学から環境学へと、分析と統合の学びの調和をはかります。
- 4) 直接体験によって五感から第六感に向かう環境学習From five senses to the sixth senseを行います。

日本村塾

Nihonmura College for Environmental Studies



自給農耕ゼミ
扶桑園ゼミ
民族植物学ゼミ

塾生募集

連絡先: エコミュージアム日本村／
URL: <http://www.milletimplic.net/>
<http://www.ppmusee.org/>

kimatami@u-gakugei.ac.jp

生物の文明への黙示録
植物と人々の博物館

日本村塾：学びたい人々だけが集う大学の芽生え。先生なし、授業料なし、入学試験なし、資格取得なし。

くに^①の市民が学びー 合う、変わる、伝える

文化を再創造、継承する
くにの暮らしを良くする
平安な真文明に移行(トランジッション)する

縁側・囲炉裏端 講座の趣旨

世界中で気候変動が大きくなり、ピークオイルも越えました。

日本では未曾有の大地震・津波の被害復興の努力を重ねていますが、一方で原子力発電所の放射性物質公害が進行しています。

都市民は日本村での環境学習によって、持続可能な地域社会を都市に再生する契機を得ることができます。

私たちが子孫のために地域社会を維持したいのなら、私たちは山村の伝統的知恵を学び、素のままの美しい暮らしにゆっくりと変えていきましょう。

まち（都市）を考える

- 自然や山村（農山漁村）から離れたら、孤立するのは都市です。
- 都市でも、家庭菜園・市民農園を普及して、少しでも食料を自給しましょう。
- 山村（農山漁村）から伝統的な知恵を学び、持続できる社会を創りましょう。

むら(山村)から学ぶ

- 山村(農山漁村)は暮らしの中で、自然と闘い、共存し、共生をしています。
- 山村(農山漁村)は自然に添った伝統的な暮らしの知恵を蓄積しています。
- 山村(農山漁村)は水や森を保全し、食料を生産しています。

雑穀栽培講習会 日本村塾

植物と人々の博物館では
雑穀栽培講習会を、伝統
的栽培者の指導で行って
いる。上は、丹波山村の
岡部良雄さん（農家）に播種
法を習っている。下は、日
本村塾自給農耕ゼミで、
オオムギを水車で搗精し
ながら、トランジション・タ
ウン藤野の皆さんが西原
の中川智さん（農家）、白水
智さん（古文書学）らと伝統的
山村農耕について学び合
っている。



健康な食生活の伝統

この山村には縄文時代以前から人々が暮らしてきました。生活は、山菜、キノコ、鳥獣魚などの山の幸と、農耕の恵みに支えられていました。冬は陽当たりの良い山畑でオオムギを、夏は雑穀、イモや野菜を栽培してきました。多様な食材を用いて、季節折々の様々な料理が工夫され、家族を楽しませています。山畑ではコンニャク、溪流にはワサビを植えます。

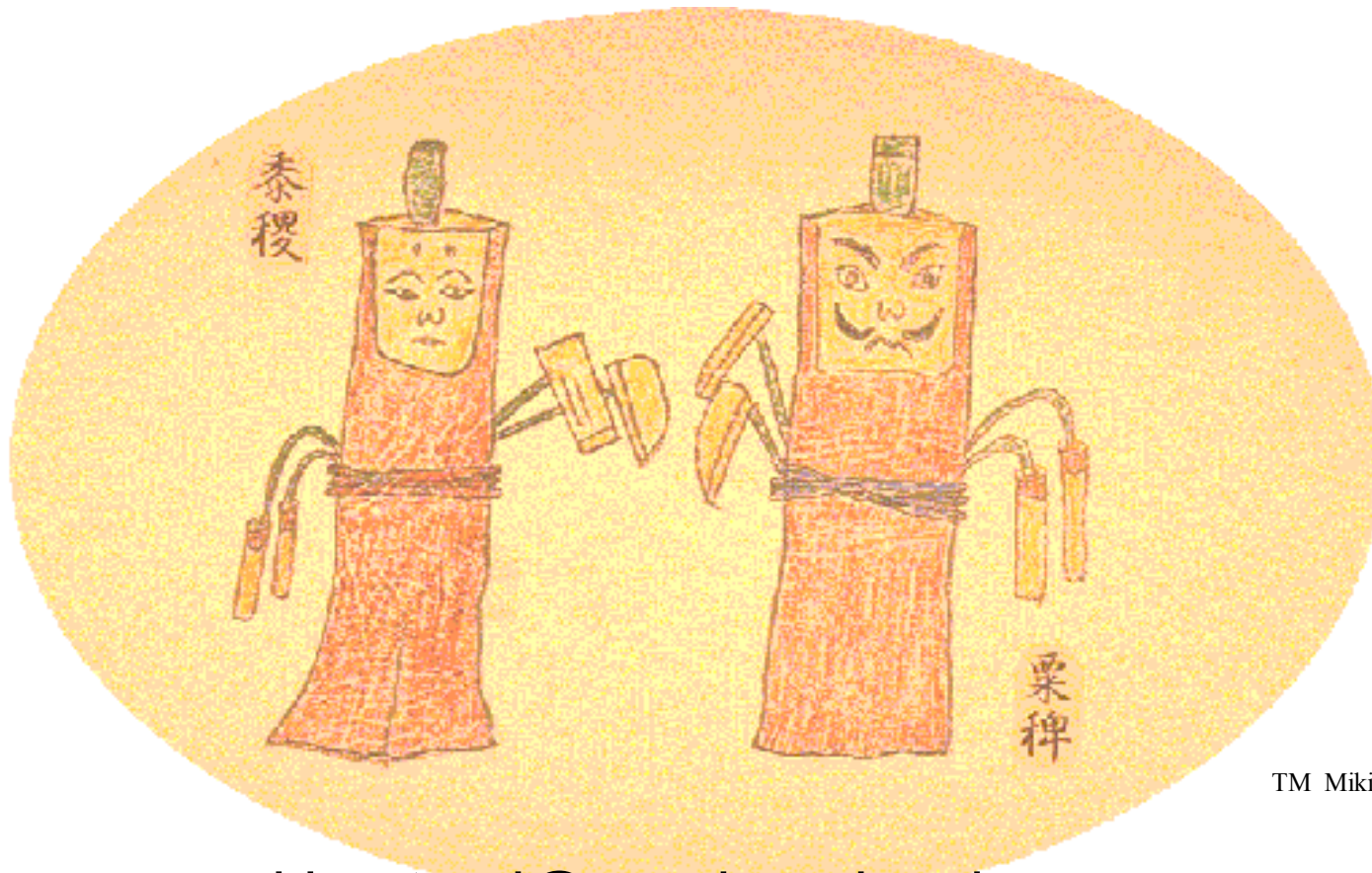
左は水車で搗精したキビとアワ。右は初夏の大麦の畑（六条ムギとモチムギ）。



みなさまへの提案、「さあ山村」

- 雑穀街道で雑穀のむらをつなぐ。
- ホームガーデン家族小規模自給農耕で、雑穀・野菜などの伝統栽培を維持、郷土食を伝承し、新しい料理を開発する。
- 学びを通じた風土産業、日本村塾を創る。
- 伝統知を学び合うことで、素のままの美しい暮らしSobiboを勧める。
- 相模川・多摩川流域近隣市町村の中山間地との連携、地域経済をつくる。

ご清聴 ありがとうございました



黍稷農季人

TM Mikio Katsunbou Kimata

連絡先:木俣 kimatami@u-gakugei.ac.jp

ホームページ:

植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>